

令和元年度 第1回 明石市地域自立支援協議会

—議 事 要 旨—

日 時：令和元年10月11日(金曜日) 午前10時～午後12時

場 所：明石市役所南会議室棟 103 会議室

出席委員：阪田委員・前田委員・河石委員・瀧口委員・鳥居委員・松本委員・小宮委員・
中嶋委員・坂口委員・山下委員・前川委員・渡辺委員・高橋委員・井上委員・
上羽委員

欠席委員：飯村委員

事 務 局：野村福祉局長・中田生活支援室長兼障害福祉課長・堀計画係長・江戸障害福祉
係長・藤井自立支援係長・和歌指導調整担当係長

関係部署：山田次長兼福祉施策室障害者施策担当課長・山野発達支援課長

関係機関：山崎しごと部会長・鳥居くらし部会長(協議会委員兼務)・飯塚こども部会長
橋田課長・後藤主任・松本専門員・柴田専門員・南部専門員

事務局

—開会挨拶—

—出席の確認—

—事務局挨拶—

福祉局長： 当協議会の目的は、障害のある方を地域で支えていく上で、当事者、支援者、
また障害がある事で生き辛さや悩みを抱えている方の声を拾い上げ、協議会から
施策提案を挙げていくことだと考えている。

昨年12月に亡くなられた黒田前会長は、当時協議会に対して非常に強い思い
を持っておられた方であった。前会長の思いも引き継ぎながら、この協議会で障
害のある方のことを一生懸命考え、成果に結び付けたい。

本市は今、やさしいまちづくり、地域共生社会づくり、そしてインクルーシブ
な社会を目指すことを、先進的に発信しながら取り組んでいる。私は、これら地
域共生やインクルーシブ社会という考え方の根幹は、障害福祉だと考えている。
そして明石市における障害福祉の重要な役割を担っているのが、この地域自立支
援協議会である。

皆様それぞれの立場から意見を挙げ、全て応えられる訳ではないが、挙げられ
た意見は市の施策の考え方としてしっかりと受け止めたい。

—福祉局長退席—

—机上の委嘱状の確認—

—各委員自己紹介—

—配布資料確認—

総務局職員室

—明石市の障害者雇用について 資料を基に説明—

質問事項

委 員： 任期付短時間勤務職員の勤務時間は1日6時間が主な対象となるのか？

職員室： そのとおり。想定は週31時間、または週30時間と考えているが、可能な範囲でそれぞれの状況に合わせた柔軟な勤務時間等を模索したい。

委 員： では1日4時間勤務という希望者も申込は出来ると考えて良いか？

職員室： そういう方も申込を受け付け、試験の中で確認をしたい。

委 員： どれぐらいの応募人数なのか？

職員室： 昨年度は、任期付短時間勤務職員10名程度の採用枠で募集し、47名の応募があり、結果9名を採用した。

委 員： 任期付短時間勤務の職員の場合、「初任給、月額〇〇円」と記載があるが、先程の4時間勤務希望者の場合、時給になるのか？

職員室： 勤務時間が短くなる場合は、勤務していない時間分減額になるが、月額給料をベースに考えている。

委 員： 神戸市に住民票がある者でも不利になる事はないのか？

職員室： 採用試験については、住所地は関係ない。他市在住の方も受け付けている。

—職員室退席—

事務局

—協議会及び専門部会（以下、部会という）について要綱、要領を基に事務局より説明—

—協議会の会長、副会長の選任—

（委員より事務局一任の声）

事務局： 事務局案として、会長として学識経験者であり、他の審議会の経験も豊富な阪田憲二郎委員に、副会長として前期副会長を務め、当協議会の経過も詳しい山下孝光委員にそれぞれお願いしたい。

—（賛成の）拍手—

—会長、副会長挨拶—

事務局： 次に、部会委員の選任に移る。

部会委員は協議会長が任命する事になる。各部会及び運営会議事務局である、

明石市基幹相談支援センターから各部会委員(案)の紹介を行いたいが、会長よろしいか。

—会長了承—

—基幹相談支援センターより資料を基に各委員(案)の紹介—

—会長 三部会委員案承認—

事務局： 各部会の部会長、副部会長の選出については後日行う。

以上、ここまでの進行は協議会の運営体制を協議するため、事務局が担当した。

以降は、協議会として、議題について協議する流れとなるため、進行は阪田会長にお願いする。

—協 議—

会 長： それでは、次第の協議事項に移る。

議題1、令和元年度明石市地域自立支援協議会の協議内容について事務局から説明をお願いします。

事務局 —明石市第5次障害者計画、明石市障害福祉計画第5期 障害児福祉計画第1期のポイント説明—

会 長： 次第の2番目、各部会からの平成30年度活動報告、令和元年度の活動方針について各部会から説明をお願いします。

—資料に添って各部会長より報告—

会 長： 委員の皆様からご意見、ご質問があればお願いします。

委 員： 3点、意見したい。昨今大きな災害が頻発し、障害者施設で痛ましい事件も発生した。こども部会の活動報告書の中には、防災関係講座の実績等が記載されているが、これらの開催は成人にとっても、非常に重要な課題ではないかと考えている。過去に防災、防犯対策に対して、部会活動として検討した実績はあるか。例えば、避難訓練、避難時用意すべきもののチェックリスト作成、個別避難計画への協力等、市の担当部署と連携した防災、防犯対策の取組みが必要ではないか。

2点目に、しごと部会の活動について、B型事業所のネットワークの販売活動

先として明石高校と明石清水高校が記載されている。明石市民としては、唯一の市立高校である、明石商業高校が活動先として入っていないことが少し物足りないと感じる。この活動は、東播磨県民局が事務局である、東播磨の障害者施設ネットワーク連絡会の「チャレンジ絆」事業等に関係することであると思うが、明石市独自の形でも良いので、販売活動先として是非とも明石商業高校を入れてもらいたい。

3点目は、活動経費の質問である。各部会スタッフの人件費は、おそらくそれぞれの所属団体や施設から支出されていると思うが、それ以外にも印刷費や交通費、会場使用料等、様々な経費が部会活動において発生すると思われる。これらの経費は障害福祉課や、基幹相談支援センターで計上されているのか。若しくは、各部会スタッフの所属団体や、事業所の持ち出しになっているのか。今後、更に活動を発展させていくためには、予算的な支援も必要になってくると思う。

運営会議事務局： 1点目について運営会議事務局からお答えする。前々年度になるが、くらし部会に障害者支援施設とグループホーム等の職員で構成する「住まいの会」というワーキンググループがあった。

ちょうど、やまゆり園の事件もあったところで防犯対策、防災対策について、ワーキングの中で話題になり、市の担当部署によるハザードマップの説明や阪神淡路大震災当時の福祉施設の現状や取組み内容等の体験談を受講した。

さらに、高齢者入所施設「大蔵の里」近隣で火災が発生した際、施設職員の迅速な避難誘導により入居者に被害者が出なかったことが報道された。緊急時の避難誘導等の対応を学習すべく、「大蔵の里」施設長を招いて、避難誘導方法や、学校等に避難後の苦労話等を伺った。

受講内容を参考にした避難訓練を実践するまでは至らなかったが、学習した先進的な取組みを踏まえてワーキンググループの各メンバーが所属する事業所の防災計画等の見直しに反映させる取組みを実施した。

会 長： 2点目の「明石商業高校を販売活動先にどうか」について、しごと部会いかがか。

しごと部長： 清水高校と明石高校以外の県立高校は、販売品を置くスペース等の問題で明石商業高校含めて販売活動先としては入っていない状況である。今後、県立高校だけでなく、明石商業高校も何らかの連携が出来るような形で考えていきたいと思う。

会 長： 3点目の活動経費について、事務局に願います。

運営会議事務局： 経費について、部会の委員に会議ごとに交通費をお渡ししている。同じく会場費や印刷費等は自立支援協議会の費用の中から賄っている。

委 員： 4、5年前と比べると、すごく各部会の取組みが進んでいると感心している。その中で一つ気になったのが、しごと部会でのチェンジチャレンジウィークである。各中学校もトライやるウィークを実施しているが、共生社会の流れの中で、

健常の中学生と一緒にこのチャレンジウィークが出来たら良いと思う。

会 長： しごと部会から願います。

しごと部会： チャレンジウィークは、一般の中学生とは違って障害をお持ちの方、特別支援学級の方ということで、受け入れ先にも特別な形で捉えられがちである。「ちゃんと先生が就いてくれるのであれば一週間受け入れてもいい」等、少し枠組みがあった方が良いという意見も聞いた。

そうではなくて、障害をお持ちの方も普通の中学生も同じようなスタンスで、企業の方に、当たり前前に働く機会をいただける事が大きな目的であり、企業、私達、お互いに良い発見ができれば良いと考えている。

ただそのためには、明石市の協力が多大に必要であり、ある程度形になってきた所で、チャレンジウィークとトライやるウィークのコラボレーションをどうして行くのかという所まで私達は提案したいと思う。チャレンジウィークを部会活動として継続して行くのではなくて、どこかで明石市の活動として捉えていただけるようなワーキングの成果として今後展開していきたいと思う。

会 長： 他にないか。

委 員： 私は、くらし部会委員と自立支援協議会委員との両方の立場で参加しているが、少し住み分けが出来てない所もあり、確認したい。

各部会は、障害福祉計画の目標等が妥当であるか確認したり、計画内容を実現するために活動しているというイメージである。しかし全体会で部会報告を行うと、全体会の協議が部会の活動内容に対して集中しがちであると感じる。

しごと部会に関連する障害福祉計画の内容を見ると、「就労移行率3割以上の事業所が44%しか達成出来ていない」ことや、くらし部会に関連する内容では「グループホーム6人分1か所整備した」ことが実績見込となっている。こういった、障害福祉計画の内容と部会活動内容の整合性等を協議すべきではないか。

部会活動は、障害福祉計画の達成のために行っているという事をまず確認したい。また、それを踏まえて障害福祉計画の内容について、ハード面や施策につながるような論点の協議が全体会でなされると、もう少し部会と全体会の住み分けができると思う。私自身の理解の確認も兼ねて意見する。

会 長： 部会活動と障害福祉計画との関連性について事務局願います。

事務局： 委員からご指摘のように、障害福祉計画、障害者計画は、全体会を通して策定しており、各部会には、計画内容を具体化した活動を展開してもらっている。

来年度は障害福祉計画第6期を策定していく年度である。全体会や運営会議での協議、各部会の活動の流れをもう一度整理しながら、各部会と全体会の双方向のやりとりが必要になってくると思う。現障害者計画を策定する際にも各部会から意見を伺い、そのエッセンスが基本目標に反映されている。来年度も同じような形で、各部会、運営会議、全体会と連携を図りながらより良い物を作っていく

たいと考えている。

会 長： 各部会の活動が障害福祉計画等に反映されると意識を持って活動してくださいという事でよろしくお願ひしたい。他にないか。

委 員： 自立支援協議会の活動内容について一般市民に対する啓発にもう少し力を入れてほしい。明石市自立支援協議会に関してホームページ等調べてみたが、今一つピンと来なかった。実際には各部会の色々な取組みやすばらしい活動があるので、是非、ホームページ等に反映してほしいと思う。

いわゆる会議の議事録的なものだけではなくて、表や画像、ユニークな取組みの写真等を掲載すれば、もっと一般市民に興味を持ってもらえるし、ハンディのある方に伝わるのではないかと思う。

会 長： 多くの方に自立支援協議会の活動を広報してもらいたいという意見である。事務局お願ひする。

事務局： 明石市地域自立支援協議会の取組みは、東播磨圏域3市2町の中でもかなり具体的な活動が多く、評価・注目をされている協議会、各部会の取組みである。より多くの方に明石市の誇れる活動を知ってもらえるよう、啓発活動にも力を入れて行きたい。

会 長： 他にないか。

委 員： こども部会の方にお聞きする。通所等の連絡会を開催しているという事だが、明石市内の全ての児童事業所が参加しているのか。

こども部長： 連絡会にはほぼ9割の事業所が参加しており、全ての事業所には連絡会の内容等をメールで送付し、情報共有している。

会 長： 時間的には最後の一人位になると思うが、他にないか。
では以上で協議事項を終了する。

—事務局より事務連絡—

—閉会—